



慶應義塾大学

21世紀を先導する法曹の育成

教育の特色

ハイレベルな教員による実践的な教育を展開

●新時代に相応しい法曹を。

慶應義塾大学大学院法務研究科(法科大学院)は「国際性」、「学際性」、「先端性」の理念の下、21世紀の法曹にふさわしい学識と能力を身に付けた、法化社会の先導者を養成します。既に多くの修了生が司法試験に合格し、将来を嘱望される法曹として活躍しています。(司法試験合格者数1,782名、合格率76.1%)。

●多彩な選択科目で「先端性」を身に付ける。

8つの領域(公法系、民事系、刑事系、社会法系、国際系、学際系、外国法基礎系、グローバル系)で多彩な広がり専門的な深みを兼ね備えた100科目以上にわたる豊富な選択科目を配置し、必修科目で鍛えた法的思考力を応用能力に高めることができます。その中核には、「展開・先端科目」としてのワークショップ・プログラムが設置され、企業法務、金融法務、渉外法務、知的財産法務の4分野の他、経済法、EU法、環境法、労働法、消費者法など様々な分野について、第一線で活躍する実務家教員と研究者教員の共同担当の授業により実践的な技能を体得することができます。

また、フォーラム・プログラムを充実させ、いわゆる「第4の法曹」として、企業や官庁、国連などの国際機関で活躍する人材の育成に本格的に取り組んでいます。

●新時代の法曹にふさわしい「国際性」を。

急速に進むグローバル化によって、法的紛争および犯罪は国境を越えて拡大し、法曹の活動領域の国際化がもたらされました。そのため現代社会にあっては、渉外法務に携わる弁護士に限らず、あらゆる法律専門家に国際性が要求されます。慶應義塾大学法科大学院は、国際的な視野の養成にも力を注ぎ、選択科目においては、アメリカ、ヨーロッパ、そしてアジア諸国等の法の基礎を学ぶ授業、ネイティブ教員による先端ビジネス法務に関する英語での授業科目が充実しています。

2015年から、国連等の国際機関(ウィーン)やアジアの法整備支援諸国(ラオスなど)での海外エクスターンを開始しました。2017年4月には、英語を使用言語とし、1年で学位取得が可能な日本版LL.M.(グローバル法務専攻)を開発しました。

●「学際性」という視座を育む。

めまぐるしく変化する現代社会においては、日々あらたな法的諸問題が生じ、時代の変化に対応した視点からの解決が求められます。そこでは、既成の発想にとらわれることなく創造的な解決策を示し得る柔軟な法的思考力と、歴史的視点をふまえた「学際的」なプロセスが重要です。慶應義塾大学は10学部14研究科を擁する総合大学。経済学、金融論、簿記論等の隣接科目は慶應義塾の他学部の著名な教授が担当しています。外科医であり、弁護士でもある専任教員を中心に、医事法の講座が開設され、KBS(慶應ビジネススクール)とは「起業」に関する科目の相互履修を開始しました。

カリキュラム

実務法曹としての基礎固め、実践的なスキルを修得するカリキュラムを提供。

授業は半期ごとで、科目群として法律基本科目、法律実務基礎科目、基礎法学・隣接科目、展開・先端科目を置いています。このうち、必修科目は法律基本科目59単位(うち公法系科目13単位、民事系科目31単位、刑事系科目15単位)と法律実務基礎科目10単位(法曹倫理、民事実務基礎、刑事実務基礎、要件事実論)で編成しています。選択科目は、ワークショップ・プログラムを含む展開・先端科目12単位以上と基礎法学・隣接科目(4単位以上)、法律基本科目(選択)(5単位以内)、法律実務基礎科目(選択)を併せて31単位以上修得することとしています。

入学者選考

●入学者選考のねらい

慶應義塾大学大学院法務研究科(法科大学院)では、国際性、学際性、先端性を備え、21世紀の社会を先導する法曹の育成を目指す

法務研究科 法曹養成専攻

●募集人員 / 220名

※文部科学省へ定員変更を届出予定
法学未修者コース 約50名
法学既修者コース(6科目入試) 約150名
法学既修者コース(学部3年生4科目入試) 約20名

●修業年限・取得学位

標準型3年制コース(法学未修者)
短縮型2年制コース(法学既修者)
各コース修了者に専門職学位を授与

●教員数

専任教員(実務家約23名を含む) 62名

しています。入学者選考においても、志願者が将来そのような法曹として社会で活躍するために十分な資質、潜在能力、意欲を備えているか否かを、様々な資料から総合的に判断して選考を行います。

以上の趣旨から、法学未修者コース・既修者コースのいずれについても筆記試験(法学未修者コースは小論文試験、法学既修者コースは法律科目試験(6科目))の他に、適性試験、学部成績、さらに、志願者報告書を通して、志願者が大学学部・大学院などにおいて、どのような問題意識に基づいて学習・研究を行ってきたか、社会人として経験を有する者については、どのような経験を有し、何を身につけたか、またそれを通して法曹への意欲をどのように育んできたか、ということを選択しようと考えています。

●入学者選考のスケジュール

出願受付期間:

2017年7月17日(月)~7月24日(月)
【締切日消印有効】

※法学未修者コース(3年制)と法学既修者コース(2年制)の併願が可能です。

筆記試験日:
法学未修者コース(3年制):
2017年9月3日(日)
法学既修者コース(2年制):
2017年9月2日(土)

合格発表日:
2017年9月12日(火)午前10時
※詳細は2017年9月入学、2018年4月入学
入学試験要項をご覧ください。

既修学部3年生コース(4科目入試・4月入学)

学部3年生の早期卒業・飛び級による既修者コース進学を促し、法曹資格取得の時間的・経済的負担を軽減するために、2016年入試より実施。学部3年生が憲法、民法、刑法および商法の4科目のみで合格できる特別枠(約20名)を設けます。一般6科目入試と同一時間帯に同一の問題で実施し、併願も可能です。学部3年生で法曹に関心をもっている方はぜひチャレンジしてください。なお、本枠での合格者は、入学前の春休みに訴訟法科目認定試験(民事訴訟法、刑事訴訟法)を受験します(そこで水準に満たない場合、入学後に対応する科目を履修します)。



慶應義塾大学法科大学院(KLS)から海外のロースクールに留学へ。

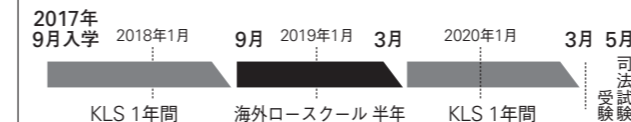
半年間の海外留学

(※既卒者、2017年9月卒業見込者、飛び級による2017年9月入学見込者に限ります。)

2.5年の在学中の半年間、アジア・アメリカ・ヨーロッパの提携先ロースクールに留学可能(毎年5名程度)

●提携校との交換留学制度 展開先端科目として単位認定(7単位)

受入ロースクール
コーネル、ジョージタウン、UCLA、
プリティッシュ=コロンビア(アメリカ・カナダ)、延世、清華、
シンガポール・マネージメント(アジア)、メルボルン(オセアニア)
パリ政治学院(ヨーロッパ)など



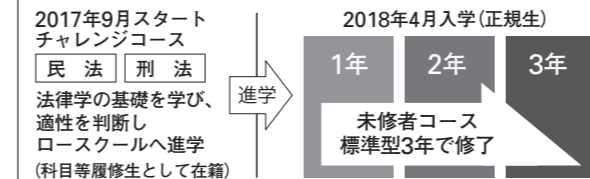
在学モデル(2017年秋入学の場合)
●2017年度秋学期+2017年度春学期 最初の1年間はKLSで勉強
●2018年度秋学期 半年間、海外ロースクールで勉強
●2019年度春学期+秋学期=帰国後の1年間はKLSで勉強
※2020年5月に日本の司法試験受験

仕事を続けながら、「未修チャレンジコース」で学び、適性を探る。

社会人・他学部・他研究科出身者対象

(※既卒者、2017年9月卒業見込者、飛び級による2017年9月入学見込者に限ります。)

法律学の基礎を学びながら、法曹としての適性を判断し、翌年度の春学期からロースクールへ



奨学制度 さまざまな奨学制度で就学をサポート

●奨学金

入学試験成績優秀者に対して、授業料を全額免除する「法務研究科奨学給付制度」をはじめ、慶應義塾大学独自の奨学金は全て返済不要(給付)です。また、学外奨学金には、「給付」と修了後に返還を要する「貸与」のものがあります。

●教育ローン制度

提携先金融機関から学費を借り入れる学費ローンです。

※奨学制度の詳細については、本学Webをご覧ください。
http://www.gakuji.keio.ac.jp/life/shogaku/system_in.html

●教育訓練給付金「専門実践教育訓練講座」(厚生労働大臣指定)について

社会人または社会人経験者を対象とした「専門実践教育訓練給付金」制度が、2015年度入学生より適応となります。概要、申請手続等の詳細は、ハローワークのWebサイトをご確認ください。

(2017年度参考)

		未修者・既修者
学費	入学金 ※	¥100,000
	在籍料	¥300,000
	授業料	¥1,060,000
	施設設備費	¥170,000
	小計	¥1,630,000

※入学金は初年度のみ、その他の費用は含まれていません。

アメリカのロースクール(LL.M.)への1年留学

在学生の中から優秀な1名を選考の上、アメリカの提携先ロースクールのLL.M.コースに1年間派遣するプログラムを2016年から開始し、UCLA(ロサンゼルス)に派遣しました。LL.M.コースを修了すれば、7月に行われるアメリカでの司法試験の受験資格が与えられます。法務研究科が、留学先ロースクールの授業料を援助します。なお、受入ロースクールの出願資格(法学部卒業、TOEFLスコア等)を満たしていることが条件です。日米2カ国の法曹資格を取得して、グローバルなフィールドで活躍する法曹を目指しましょう。

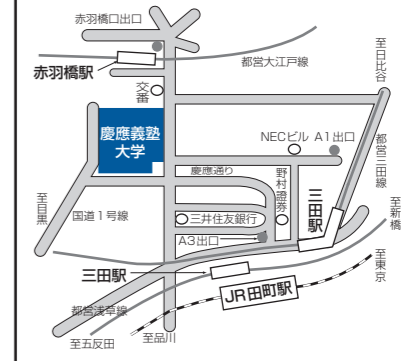
ギャップ・タームを利用した海外大学サマースクールへの参加

本研究科では、グローバル化プロジェクトの一環として、修了生が、いわゆる「ギャップ・ターム」(司法試験受験後合格発表までの期間)を利用して、海外提携校のサマースクールに参加することを支援します。

具体的には、ワシントン大学ロースクール(シアトル)のサマースクールや、コーネル大学ロースクール(ニューヨーク州)主催のサマースクール(パリで開催)への参加を希望する修了生のうち若干名を選抜し、授業料相当分の奨学金を支給します。サマースクール参加に際しては、本研究科で事前に英語でのグローバル科目を受講しますが、その学費の一部については奨学金として法科大学院が支給します。

◆アクセス

- JR山手線・京浜東北線「田町」駅下車、徒歩8分
- 都営地下鉄浅草線・三田線「三田」駅下車、徒歩7分
- 都営地下鉄大江戸線「赤羽橋」駅下車、徒歩8分



●問い合わせ先

〒108-8345
東京都港区三田2-15-45
慶應義塾大学 学生部法科大学院入試係
Tel 03-5427-1609 Fax 03-5427-1752
URL <http://www.ls.keio.ac.jp/>
E-mail ls_admissions@info.keio.ac.jp